



# 十符のしごと場



## 宮城の味と安心を届ける 炊飯のプロフェッショナル「ボン・リー」

### 年中無休の炊飯工場 おいしいご飯をあなたのもとに

利府町菅谷産野原にあるボン・リー宮城は、フランス語のその名が示すとおり、「おいしいお米」を提供するための炊飯工場です。業務は、白飯、酢飯、塩飯、茶飯などの炊飯と配送。主な取引先である仙台圏の事業所、スーパー、百貨店などへ、年中無休で新鮮でおいしいご飯を届けています。また、仙台名産品の牛タンと相性の良い麦飯も提供しています。その他、ご飯の加工品も提供し、加工品の中でも特に「おにぎり」に力を入れています。

おにぎりは、毎日5,000~6,000個も生産され、スーパーやコンビニ、高速道路のサービスエリアや大学の生協など多岐にわたる場所へ届けられます。形や具材のバリエーションが豊富で、形状は三角おにぎり、直巻おにぎり、二個入りセット、丸型の混ぜご飯タイプなど様々。具材は鮭や梅などの定番から、宮城特産の仙台麩や荳ワカメなど地域色豊かなものを幅広く取り揃えています。

炊飯から配送までの仕組みは、前日までに受け付けた注文に応じ、夜間に炊飯したものを順次配送しています。炊飯には最新のスチーム炊飯機械が導入され、一定



▲お話をきた宝剣さんと阿部さん

の色・艶・弾力・食感を持つご飯が安定的に提供されます。使用するお米は、宮城県加美町のナカリ株式会社から供給されています。今夏世間を騒がせた米不足の事態も、ナカリとの年間契約により供給が安定しているため、影響はありませんでした。また、お米を炊く水は、工場敷地内に掘った利府町の井戸水を使用しています。コストを抑えつつ地域資源の利用にもこだわる徹底ぶりです。利府の地下水は昔から「おいしい水」として評判で、軟水であるため、ご飯の味をさらに引き立えています。

### 徹底した衛生管理 おいしく安全なご飯を

ボン・リー宮城が最も大切にしているのは、「厳選された素材」、「品質管理」、そして「徹底した衛生管理」です。使用するお米は、各取引先から特に指定がない限り宮城県産ひとめぼれを採用し、スチーム炊飯機によって一貫しておいしいご飯を提供できるようにしています。

衛生面に関しては、宮城県初の「炊飯HACCP」認定を取得し、社内には専任のチームを組織。国や県からも表彰されるほどの衛生管理体制が整えられています。工場内には管理栄養士や栄養士が在籍し、日常の衛生管理や従業員教育、衛生管理マニュアルの作成、菌検査の実施など、あらゆる面での安全管理に取り組んでいます。特に従業員への教育においては、細かい衛生管理基準の徹底を怠らず、繰り返し指導することで衛生意識を根付かせています。

## 5カ所目



# ボン・リー宮城 株式会社

業務用米飯・米加工食品を販売する会社です。

利府町菅谷に工場を構えるボン・リー宮城株式会社は、炊飯HACCPを取得し、徹底した衛生管理とおいしさを追及し「白飯から米加工食品まで、ごはんのことならお任せください」がモットーです。ボン・リー (Bon Riz) とは、フランス語でおいしいお米という意味。品質・味を吟味し、おいしいごはんを常に提供したいという気持ちが込められています。



水の品質管理にも厳しい基準を設け、年に4回の水質検査を実施。ろ過機や軟水器を使って衛生管理された利府の井戸水は、飲み水としても安全な状態で処理されています。万が一でも食中毒が発生すれば、全体の信頼が失われてしまうため、気を抜くことなく「衛生第一主義」を徹底し、安全で安心なご飯を提供しています。

### 地域とともに歩み 地域の味と文化を伝えたい

今後のビジョンは地域密着型の企業として、利府町や宮城県全体における地元の魅力ある食材を使った商品づくりにさらに力を入れていくそうです。たとえば、牛タンや仙台麩、三陸産のワカメを具材にしたおにぎりは、地域の特色を反映した商品として各地で好評を博しています。また、東日本大震災後の原発事故の影響で輸出が減少した「はや」を具材にしたおにぎりも開発し、JRなどの協力を得ながら宮城の魅力を伝えつつ、地域産業を支える取り組みを続けています。

目指しているのは、単なる食の提供者としてだけでなく、地元の文化や資源を生かした地域の「味」を伝える役割を担うこと。今後は積極的に地元の子どもの自由な発想やアイデアを取り入れ、これまでにない商品開発に挑戦していきたいと意欲的です。こうした活動を通じて、日本三景の松島などを訪れる観光客だけでなく、地元の人々にも宮城の魅力を再発見してもらうきっかけを提供し続けたいと考えています。

ボン・リー宮城は、おいしいご飯を届けるだけでなく、安全・安心な商品づくりと地域密着の取り組みを大切に、これからも地域社会とともに成長を目指しています。

取材・文 石井宏之



▲ tsumikiスタッフも美味しかったです！

利府町で活躍する事業者を紹介していきます

十符(とふ)とは？ ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スグ)草が生じ、「菅蒿(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅蒿の編み目が10編あることから「十符の菅蒿」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)、符が府に変わったと言われています。

# from RIFU-CHO CHALLENGER

## — CHALLENGER

かりやす  
利府町刈安染めプロジェクト  
佐藤春美さん



鮮やかな黄色の染め物



## — 利府町に伝わる刈安染め

かつて利府町に存在した「刈安染め」という文化。平安時代、京の都から利府の赤沼を訪れたお姫様が里人から育児の手助けを受けた御礼に染め物の技法などを伝えた。現存する染殿神社は、姫が住んでいた跡地の傍にお堂を建てたものだと言われています。「刈安(かりやす)」というイネ科の多年草を用いた刈安染めは、鮮やかな黄色に染めあがるのが大きな特徴です。いまではその原料となる刈安草は、利府でほとんど見ることができなくなっていました。かつて利府町にあった文化を復元し利府町を盛り上げようというのが「刈安染めプロジェクト」です。

## — 先人の営みに学ぶ

刈安染めプロジェクトは、利府町地域女性リーダー育成事業からスタートしました。プロジェクトのリーダーである佐藤さんは、「利府町の伝統文化でもある刈安染めを知ったのが始まりでした。衣食住の営みの中に『あそび』や『感性』が交わることで、より人生が豊かになることを会得した当時の人々の喜びを想像すると、こちらまで幸せな気持ちになりました」と活動のきっかけを語り、歴史のストーリーから学ぶことが多く、先人からのメッセージに背中を押されたようです。佐藤さん自身、学生時代には芸術文化について学び伝統民俗芸能研究サークルに所属していたこともあり、地域に根ざした文化と触れ合ったり、それを国内外に広げる活動をしたりする機会もあった一方で、後継者不足や過疎化などの課題を持ちながらも、受け継がれてきている伝統文化の現状を目の当たりにしてきました。「先人の知恵が消えてしまうというなら、自分たちが町に伝わる文化をもう一度蘇らせ盛り上げていけば良い」と活動を始めました。町の文化を継承し再構築してより楽しく心豊かな生活ができたらという思いがこのプロジェクトの核となっています。

## — 利府産の刈安染めを復活させたい

利府産の刈安草で染めるのが、プロジェクトにおける目標の一つだと佐藤さんは話します。「刈安染めを通して環境のことを考えるきっかけとなり、世代を超えたコミュニケーションツールとしてシビックプライドを育てる一助になってもらえたら嬉しい」と佐藤さん。利府の土地で育った刈安草を使って、染め物を作ることができたらプロジェクトとしても大きな意義となることでしょう。現在は存在を認知してもらうために、染め会などを通して町民との交流を精力的に図っています。また、染め物を商品化し tsumiki で開催される「こ・あきない市」などのマルシェへの出店活動も行っています。活動を共にする会員も募集しながら、利府町に伝わる文化を復活させ育もうとする「刈安染めプロジェクト」の挑戦は続きます。

取材・文 吉田音生



## 生活の中に伝統と彩りを、 染め物から見出す 新たな町の可能性

## — INFORMATION

Instagram @rifucho.kariyasuzome.project

## tsumiki TOPIC

# 【 Rifuのいいとこめっけ！ 「まち自慢コンテスト2024」結果発表！！ 】

利府町×MEQQE×tsumiki企画として、4月からエントリー作品の募集をはじめ、7月～8月にかけて一般投票を実施してきた「まち自慢コンテスト2024」。利府町愛が詰まった素晴らしい作品の中から受賞作品が決定しました。

受賞者の感想  
記事にすることであらためて利府町の魅力的な場所を思い、訪れることができて楽しかったです。  
他の記事などを見て利府についてたくさん知ることができて楽しかったです。

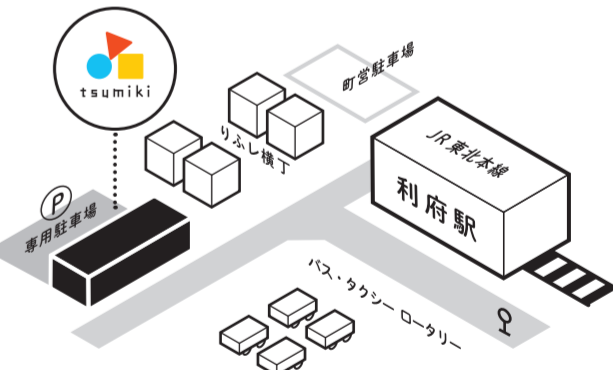


これからもMEQQEを活用し、他のテーマでの投稿も行い、地元のPRに貢献したいです。楽しい企画をありがとうございます。  
利府の魅力を客観的にリサーチすることができました。  
アプリの仕組みがとても面白かったです。同じ場所でも、作成者の編集が異なるので見比べるのも楽しかったです。  
なかなか更新できなかつたのですが、みなさんが子育て情報に関心があるのが分かりました。

MEQQE(めっけ)  
「利府町まち自慢コンテスト」  
金エントリー作品はこちらから！



利用時間  
9:30-17:30  
(水・金曜日は21:00まで開館)  
休館日  
火曜日・年末年始  
〒981-0104  
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2  
TEL 022-766-9231  
FAX 022-766-9232  
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(商工観光課シティセールス係)  
管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto  
利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住施策などに取り組んでいます。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト rifu-tsumiki.jp  
Twitter @rifu\_tsumiki  
Facebook <tsumiki>で検索  
Instagram @rifu\_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。  
つみきのキモチ vol.25 発行日●2025年1月22日 発行日●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・楳生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊瀬谷美貴(Interagire)

data:  
ボン・リー宮城株式会社  
● 利府町菅谷新産野原45-1  
☎ 022-356-7666(代)  
🌐 https://www.bonriz.net/index.php

